

第三十二回熊本医学・生物科学国際シンポジウム開催報告

熊本大学大学院生命科学研究所

産科婦人科学分野教授 片渕 秀隆

同准教授(プログラム委員長)

大場 隆

平成二十八年十一月三日(木)に「第三十二回熊本医学・生物科学国際シンポジウム」を熊本大学山崎記念館にて開催いたしました。産科婦人科学分野が担当

させていただいた本シンポジウムでは、「卵巣の科学『The Ovary』と題して、卵巣を構成する幹細胞を中心テーマに据え、卵巣の発生、分化のメカニズムから、iPS細胞による卵巣の再生、卵巣がん幹細胞、そして早発卵巣不全に対する治療戦略について基礎・臨床領域のトピックスを扱いました。

午前中のセッション「Development of ovary in vivo and in vitro」では九州大学の諸橋憲一郎教授、吉野剛史助教、熊本大学の田代浩徳教授、そして京都大学の斎藤通紀教授に、卵巣における種々の細胞の発生に関わる最先端の講演を頂戴しました。

近畿大学(現京都大学)の万代昌紀教授による、卵巣癌の発生機構についてのランチタイムセミナーを挟んで、午後のセッション「Rescue from primary ovarian insufficiency」でPusan National University (Korea) の Kyu-Sup

Lee 教授、聖マリアンナ医科大学鈴木直教授に、早発卵巣不全に対する最先端の治療についてお話いただきました。

最後のセッション「Ovarian stem cells」の演者は Pune University (India) の Shamila Bapat 教授、熊本大学の本原剛志助教、そして Institute of Medical Biology (Singapore) の Nick Barker 教授で、正常卵巣における細胞発生とのアナロジーについて活発な質疑応答がなされていきました。

十一月初頭の祝日とあつて複数の学会等と重なつていたにも関わらず、一〇四名の皆様にご参加頂き、英語で活発な討論が行われました。臨床実習で産科婦人科を廻つていた学生にも参加を促したのですが、彼らにとっては研究の内容はむしろん英語で討論出来る能力の必要性について感じるころが大であつたようです。シンポジウム終了後に城彩苑で開催した Gala Dinner にも六〇名余りのご参加を戴き、活発な情報交換が行われました。

本シンポジウムは熊本地震のために演者招聘の作業が一時中断したこともあつて、海外からの演者は三名と些か少ないものでしたが、一〇名の演者はいずれもこの領域の第一線におられる方々で、内容は十二分に国際水準のシンポジウムであつたと自負しております。本シンポジウムの講演内容は、シユプリンガー・ジャパン株式会社より「Cell Biology of

the Ovarys」として近日中に上梓される予定ですので、こちらもご期待いただければ幸いです。

最後になりましたが、本シンポジウムでご講演、そしてご参加いただきました皆様、開催にあたり多大なご支援を賜りました肥後医育振興会、一般財団法人恵和会、熊本大学生命科学系国際共同研究拠点、熊本医学会、そして熊本大学医学部産科婦人科学教室同窓会に感謝申し上げます。

第六十九回日本自律神経学会総会報告

第六十九回日本自律神経学会総会事務局長
熊本大学大学院生命科学研究所
構造機能解析学分野教授 大林 光念

平成二十八年十一月十日、くまもと県民交流館パレアにおいて、神経内科学分野教授の安東由喜雄先生が大会長を務められました第六十九回日本自律神経学会総会が開催されました。「自律神経研究の新たな展望と治療法開発」をテーマに開催された本学会には、国内外から計三九八名の自律神経学を専門とする研究者が集い、基礎、臨床の枠組みを超えて活発な議論、情報交換が繰り広げられました。

安東由喜雄教授の大会長講演では、現在の神経内科の前身である第一内科の時代から、勝木司馬之助先生、徳臣晴比古

先生、岡嶋透先生、荒木淑郎先生、内野誠先生によって脈々と受け継がれてきた熊本大学の自律神経学の歴史とともに、安東教授御自身の専門分野である「家族性アミロイドポリニューロパチー(FAP)と自律神経障害」に関するお話がありました。その内容は多くの参加者から高い評価をいただいております。また、本学会では特別講演を三題、トピックスを三題、教育講演を十題企画いたしました。これもいずれも好評を博しました。特にニューロパチーの臨床研究のオーストリイである Gerard Said 名誉教授をパリからお招き、「Autonomic dysfunction and neuropathy」のタイトルでいただいた特別講演、我が国のロボット研究の第一人者であられます株式会社ロボ・ガレージ代表取締役の高橋智隆先生からいただいた「ロボット時代の創造」というタイトルでの講演、そして宇宙航空研究開発機構(JAXA)から大島博先生をお招きしご講演いただきました。「宇宙空間での体調管理」に関しては、いずれも、多数の参加者からユニークかつ貴重な内容だったとお言葉をいただいた次第です。その他、総勢三十六名の演者からなる計九個のシンポジウムにつきまして、極力若手研究者を登用し、斬新な研究内容をご発表いただくように企画した点、さらには八十五名の一般演題発表者の中から優秀な若手研究者十名に優秀演題賞を授与した点など、日本自